



広島国際学院
創立79年

自動車整備士試験で初の全員合格!

特集 高大連携	2-3
短大学部長就任にあたって	4
はじめまして — 新任教職員挨拶	4-5
卒業証書授与式・入学宣誓式	5
教育と研究のさらなる向上を図る 工学部・情報学部	6-7
専門知識をテコに町づくり町おこし 現代社会学部	8
充実の教育で優れた人材を輩出 短期大学部	9
高校から発信	10-11
新入生オリエンテーション	12
私の大学生活	12
留学生の声	13
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	13
研究室・研究者紹介	14-15
一芸育成プログラム	16
整備士国家試験全員合格	16

傘の花も咲いた今年の入学式
(2006.4.5)

広報

第66号

平成18年6月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>

高大連携

— 高校で学ぶ大学の研究成果 —

高校出張講義、その意義

学長 今村 詮

私が学生のと看、よく先輩から「旧制高校の3年間の間に自分のやりたい分野をじっくり見定めることができた」という話を聞いたことがある。確かに、現在の6・3・3・4(2)制になってからは、高校時代に、どの分野が面白いか、またその分野についてはどの大学がいいかという情報を知るのはきわめて難しくなっている。この高校との連携は、若い高校生が進路を決めるさいに有用な情報を与えられるシステムになることを期待している。

工学部

日本の電力事情と新エネルギー

電気電子工学科 松尾 邦昭

三崎高校(愛媛)

現在、中国のエネルギー消費の莫大な伸び、石油産出国の情勢不安定などが原因で、世界はエネルギー危機に直面している。さらに資源エネルギー庁の統計によれば、石油はあと41年、天然ガス60年、ウラン60年、石炭200年でこの地球から完全に消滅してしまう。他方、エネルギーの大量使用が地球温暖化問題に深く関係しており、最近のニュースによれば、2100年には気温が5度、海面は3m(現在比)上昇すると言われる。また、われわれは京都議定書を批准しなければならない。これらの状況から期待されるのが、風力発電、太陽光発電、地熱発電、バイオマス発電などの「新エネルギー」である。限られたエネルギーを大切に使用すると同時に、新エネルギーのさらなる研究開発が望まれる。

日本の消費電力の伸び、各国の電力事情、資源の未来等を高校生に分かりやすく説明した。生徒たちもたいへんまじめに聞いてくれ、「このまま温暖化が進んだら地球はどうなるのですか」「限りある資源を大切に使うにはどうすればいいでしょうか」「もっと太陽エネルギーを利用すべきでは」など、たくさんの質問や意見が出た。

情報学部

電子メールが届くまで

情報工学科 高石 武史

安芸高校(広島)

高校生に身近な携帯電話と電子メール。だが発信されたメールが届くまでには実は多くのシステムを経由している。一方シンプルな仕組みのおかげで携帯電話の機種を問わず、PCにも届くのである。

講義ではまず、インターネット経由で電子メールがどのように届けられているか概略を説明した。メールサーバの存在と、宛先のメールアドレスからどのように相手の機器までたどっていくかを見ていき、その中でネームサーバ、IPアドレスの役割について話した。次に、電子メール、手紙、電話の違いについて触れ、実際に電子メールの便利な点、不便な点を考えてもらった。最後に電子メールの利点に関する小テストと講義内容についてのアンケートを行った。

訪問した高校ではかなりきっちり情報系科目を講義しているらしく、また1年生は前日「IPアドレス」について学んだばかりで興味を持ってもらえたようだった。当日は講義の前後に担当の先生と高校での情報科目の実施状況についてお話を伺い、非常に有益であった。講義にPowerPointを利用したので、担当の先生にはここでもご尽力いただいた。

現代社会学部

進路研究の社会学

現代社会学科 谷口 重徳

忠海高校(広島)

現代社会に関する知識を得ながら今後の進路研究の手がかりにすることもめざすという今回の講義では、最近の若者の雇用形態や職業意識を中心に取り上げた。近年、非正規雇用(アルバイト)という形態で就労している若者が400万人を越えていることや、ニートと呼ばれる就業・教育・職業訓練のいずれにも参加していない若者も増加しつつある現状を示し、それらの現象が生み出される原因を、近年の経済状況や法律、社会の仕組みの変化、当事者の意識などと結びつけながら説明した。

受講生自身にとっても比較的身近なテーマだったのか、真剣に緊張感を持って受講してもらえたことはうれしい限りであると同時に、責任の重大さも改めて感じた。

講義運営には生徒が積極的に関わり、幹事役の生徒が当日の司会を務め講師として紹介された。依頼状や礼状もいただき、しっかりとしたマナーを身につけていることに感心した。

自動車短期大学部

電気自動車と横川レトロバス

自動車工業科 益永 茂治

安西高校(広島)

高校側の出張講義への要望は、大学や短大での講義の体験を通し学問や先端技術の一端に触れて興味や関心を持たせ、進路選択の一助とすることにある。これを受け、短大で行っている実践的な講義の一例として、私がマツダの技術者時代に携わった新型車と電気自動車の開発を通じて学んで来たことを講義の柱としている。電気自動車については、その原理・構造から最新技術の燃料電池自動車まで広範に概説した。また、私が本学就任を契機にボランティアとして参加した「横川レトロバスのシャシ開発」について、地域との協力を通じて資料調査から製作まで、100年前の車が現実の姿として復元していく過程を、多くの写真や図表を用いてプロジェクターで紹介した。終りの10分間に、その時々の放送映像を編集して上映した。

連続1時間以上に渡って大学生でも緊張を保つのが難しい中、希望者というだけあって殆ど居眠りもなく目を輝かせて聞いてくれたのが印象に残っている。

2005年度 出張講義リスト

学部	学科	依頼高校名	講義名	担当者	
工	電気電子工	可部・世羅・福山明王台(広島)	日本の電力事情と新エネルギー	松尾	
		松江東(島根)・三崎(愛媛)	電子工学の話	久保	
		広島国際学院(広島)	電気電子工学の内容案内および音のはなし	西村	
	機械工	呉三津田(広島)	現代日本社会が抱える問題	下見	
		世羅(広島)	実際に学ぶ機械工学のおはなし	内海	
		岩国総合(山口)	小型移動機械の主導制御性と制御特性	宗像	
	バイオ・リサイクル	白木(広島)	循環型社会とリサイクル技術	遠藤	
		岩国総合(山口)	リサイクル技術と産業界の動き		
		松江東(島根)	リサイクル産業と日本の伝統技術	前田	
		米子工業(鳥取)	身近な物理現象・大気による金属の腐食		
		三刀屋(島根)	空気が液体になる温度では、物はどうなるか	渡辺	
		神辺(広島)	食品実習		
		土庄(香川)	ヨーグルトが可能にする健康生活	奥田	
		千代田(広島)	固体の中をイオンが高速で走る		
		広島国際学院(広島)	発泡スチロールのリサイクルと木質トレーの実用化について	山崎	
柳井(山口)		遺伝子の科学	新川		
情報	情報工	高陽(広島)	数値シミュレーションとスーパーコンピュータ	青井	
		安西(広島)	情報工学とスーパーコンピュータ		
		松江東(島根)	スーパーコンピュータと数値シミュレーション		
		情報科学(島根)	スーパーコンピュータ	高石	
		三原東(広島)	カオスの話		
		安芸(広島)	電子メールが届くまで		
		美鈴が丘(広島)	デジタルって何だ!?		
	安芸南(広島)	わかりやすい「情報工学」のはなし	趙		
	情報デザイン	広陵(広島)	最近のIT技術の動向とデジタル映像の世界	大塚、北市	
		広島国際学院(広島)	情報デザイン入門	伏見、北市	
		熊毛北(山口)	インターネットのしくみ	鷓根	
		三刀屋(島根)	アニメーション作成について	荒川	
		現代社会	松江東(島根)	朝鮮半島の南と北	奥蘭
			神辺旭(広島)	英語圏の文化に準備するには	沼野
			西(広島)	外国人とのやりとりで～	
広島文教女子大学附属(広島)			「ぼくも働きたい」-障害のある人の願い-	目黒	
呉宮原(広島)	「違うこと」と「同じこと」		山田		
福山葦陽(広島)松江東(島根)	はじめての社会福祉(社会福祉士と社会福祉援助技術)				
可部(広島)	笑いコミュニケーションの社会学		谷口		
忠海高校(広島)	進路研究の社会学				
松江東(島根)	進路意識の育成				
短大	自動車工業	高水(山口)	自動車の構造	高木	
		千代田(広島)	ガソリンエンジンとその技術	廣瀬	
		山口県鴻城(山口)	自動車の構造と仕事の分野について	飯國	
		府中東(広島)	自動車整備士について	大田	
		安西・広島工業大学(広島)	電気自動車と横川レトロバス	益永	
		黎明(岡山)	自動車の現状と整備士について	越智	
		大学・短大	呉工業・呉昭和・呉三津田・呉宮原・竹原・広島県瀬戸内・福山葦陽・府中東・美鈴が丘・三原・三原東・三次(広島)・倉敷工業(岡山)・大社・益田産業・松江商業・三刀屋(島根)		学部学科紹介 学部・学科の教育・研究概要や関連する主な授業科目、目標とする資格ならびにどのような産業で活躍するかなどを個々の大学にとらわれず紹介する。
安芸・安佐北・芦品まなび学園・神辺・久井・呉工業・上下・白木・戸手・広島県尾道・広島国際学院・福山工業・松永・御調・三次・三次青陵・安西(広島)・岡山商科大学附属・高梁・高梁城南(岡山)・新居浜工業(愛媛)			職業理解 社会に出てどのような業種・職種に就くかの観点から、本学の授業科目や取得可能資格を説明し職業についての理解を深める。	酒井・松尾・渡邊・江端・飯國・大田・小平・迫田・高木・野吹	

自動車短期大学部長就任にあたって

ひろ せ
廣瀬 裕



就任拝命にあたり、自動車短期大学としての40年の歴史と、各界で活躍されている7,500名を超える卒業生によって築かれた本学部に対する社会からの評価を一層高める責任を強く感じています。それは、二級自動車整備士の国家資格取得は勿論、社会に出て将来成長するための基礎能力と広い教養、それにあらゆる場面で機敏に対応できる人間性の修得支援を本学部が一貫して行い、真のプロ、指導者そして管理者の卵を多く輩出してきたことを再認識することだと考えます。この役割は、自動車の技術進歩が速く、社会の変化が大きくなってゆく今後益々重要になってきます。

近年、志願者人口の減少、企業への就職率の増加、他の教育機関の志願者確保への攻勢など、本学部を巡る環境は大きく変化し、本学部への志願者減少が現実となりつつあります。このためこのままの学校運営でよいのかとの懸念も出ていますが、原点に戻り本学部の役割を地道に果たして行けば道は拓けると思います。

今年度は短期大学基準協会など第三者による多角的な評価を受ける予定にしていますが、全教職員が参画して有意義な学生生活実現を含む本学部の役割を再点検し、一層の改善に取り組みたいと思いますので、ご支援の程よろしくお祈りいたします。

はじめまして

新任教職員挨拶

よろしく

なかさ けいじろう
中佐 啓治郎
機械工学科教授

微分積分、線形代数、物理学Ⅱを担当しています。就任して以来、教育の重要性と責任をひしひしと感じています。今までに得た知識や経験を生かし、学生との対話に心がけながら講義内容を十分理解してもらうように力を注ぎたいと思っています。



よこた ゆり
横田 由理
バイオ・リサイクル学科教授

広島出身ですが、アメリカで足掛け13年暮らしました。主に英語を担当します。専門はアメリカ文学で、特にネイティヴ・アメリカンの文学と環境文学を研究しています。よろしくお祈りいたします。



くりはら おさむ
栗原 理
現代社会学科助教授

高等学校の商業科教諭としての経験があります。専門は国際経済学です。本学においてはコミュニケーション基礎、経済学、国際経済学等の授業を担当します。受講生から質問の出るような、双方向な授業づくりを心がけたいと思っています。



はしもと すみや
橋元 純也
電気電子工学科講師

この度、電気電子工学科に講師として就任しました。総合教育センターでは人文社会分野の科目を担当します。皆様のご指導を仰ぎ、一刻も早く戦力となれるようがんばりたいと思っています。よろしくお祈りいたします。



こくぼ じゅんこ
小久保 潤子
情報デザイン学科講師

以前は関西の大学で教えていました。専門はアメリカ文学で、文化的背景や諸理論を踏まえ様々な視点からの分析を試みています。本学では実践的な英語力を伸ばすのに加え、多角的な視野を持った広い意味での教養が身につくよう学生たちをサポートしていきたいと思っています。よろしくお祈りいたします。



たかはた さち
高畑 幸
現代社会学科講師

このたび、現代社会学部に講師として就任しました。専門は、都市社会学、在日外国人問題とフィリピンの地域研究です。学生のみなさんが社会学と東南アジアへの関心を広げるお手伝いができるようがんばります。ご指導をよろしくお祈り申し上げます。



あべ やすひさ
阿部 康久
現代社会学科講師

学振特別研究員、名古屋大助手、九州大助手と任期付の職を転々としてきたため、本学は早くも4つ目の就職先になります。しかし、週6コマもの授業を担当するのは初めてなので、早く順応できるようがんばりたいです。



ジョージ・マイケル・ヒギンボサム
現代社会学科外国人講師

はじめまして、ジョージ・ヒギンボサムと申します(ジョージと呼んで下さい)。イギリスから来ました。日本に来てから10年近くになり、現在は妻と娘2人と黒瀬に住んでいます。近々お話しできるのを楽しみにしています。



なつあけ せい き
夏明 成己
自動車工業科講師

この度、自動車工業科で教員をさせていただくことになりました。22年間勤めたディーラーでの経験や、趣味で18年間やってきましたレース活動を生かして、学生達が社会に出た時の実務に少しでも役に立てればと思います。



はまだ まなみ
濱田 麻凡
高校教諭

今年度より、専任教諭として勤めさせていただくことになりました。少しでも化学が面白いと言ってもらえる授業ができるように、また、生徒とともに成長できるように頑張りたいと思っています。よろしくお願いたします。



きた あつし
北 篤志
高校教諭

本校勤務7年目で専任教諭として勤務することになりました。高校、大学、勤務先と全て広島国際学院(旧広島電機大学)にお世話になっているわたしです。後輩たちのいい手本、道しるべとなれる教員を目指して頑張りますので、ご指導ご鞭撻お願いいたします。



おくだ みつり
奥田 光紀
総務部長

広島県立保健福祉大学と日赤看護大学で事務局長をしていました。大学全入時代を目前に控え、「熾烈な大学間サバイバルゲームを勝ち抜くための一助になれば」と思っています。ご指導よろしくお願いたします。いつも心に懸けている言葉は、「力必達」です。



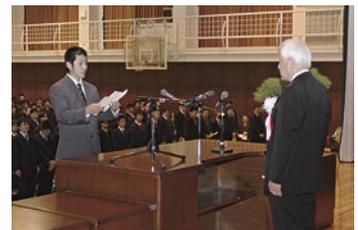
卒業証書授与式

平成17年度大学・短大合同卒業証書授与式が3月18日(土)に行われた。毎年行われる卒業式の中で雨天での式は近年例をみない。“雨降って地固まる”という言葉がまさにこの日のための言葉といえる。

式は厳かで盛大に挙行され、大学院15名、大学308名、自動車短期大学部153名が、将来への夢と希望と期待を持って社会へ旅立った。きっと日本及び世界の将来を担う人材として活躍することだろう。

式終了後、大学はリーガロイヤルホテル広島にて卒業記念パーティを開催。一方短大は、整備士国家試験の終了を待って慰労を兼ねた卒業記念パーティをホテルニューヒロデンで開いた。豪華な景品が当たるビンゴ大会などで盛り上がり、師弟ともに楽しいひとときを過ごした。

彼らの記憶に良き青春の1ページとして、いつまでも心にあってくれることを願う。



卒業証書授与式



入学宣誓式

入学宣誓式 空は雨でも晴れやかに…

平成18年度大学・短大合同入学宣誓式が4月5日(水)に本学中野キャンパス高城体育館で執り行われた。当日は雨天というあいにくの天候ではあったが、満開の桜の中に新入生を歓迎するかのようアカデミックブルーの「広島国際学院大学」の幟がとりわけ目をひいていた。

入学許可宣言に続き学長の式辞。理事長や来賓から次々にお祝いの言葉が述べられ、場内は厳粛のうちにも晴れやかな空気に包まれた。新入生は不安が入り混じりながらも学生生活と新たな友に想いを馳せているかのような表情であった。

すでに恒例となった茶道同好会による入学祝賀茶会も盛況であったようだ。新入生やその保護者が次々に訪れ、雨の中で桜を見ながらの一服もまた風流である。

本年度の入学者は、大学307名、自動車短期大学部128名、大学院18名である。今後の彼らの活躍に大いに期待している。入学おめでとう！



入学茶会

教育ミニシンポジウム

情報学部長 檜高 靖治



教育ミニシンポジウム

平成17年度の工学部・情報学部教育ミニシンポジウムは、平成18年3月8日(水)、中野キャンパス10号館のマルチビジョン講義室で開催され、理事長、学長を始め、多数の教員が参加した。午前中は、平成17年度に取り組んだ教育プロジェクトの成果が8件報告され、授業の教育効果向上を目指した多彩な工夫が紹介された。全般的に、学生の受講意欲を把握するため、「学生の基礎知識充実」を目指すのか、「学生の知識運用力充実」を目指すのかを明確にし、さらに学生の事前チェックと事後チェックとの比較によって付加価値を検証しようとする傾向が強くなっている。

午後は、全体としては平成18年度計画の申請内容11件の説明であったが、今回初の企画として学生の評判が高い授業を選んで『特別教育研究』として工学部松尾邦昭教授、情報学部高石武史助教授

の発表も加えられた。さすがと思わせる創意工夫、懇切さがあった。2つの発表ともに「手を変え、品を変えて」多面的に指導する仕組みを取り入れていたのが印象的であった。

教育ミニシンポジウムの狙いは各学科の成果や計画を聴講して、自分のところに取り入れてみたいものを選択して、成果活用の輪を広げて、ひとつの提案にまとめて、まずは本学内の「特色ある教育プログラム(Local GP)」に仕上げていくことであろう。

	教育プロジェクト課題	所属学科	代表者名
教育成果	多様な学問領域の体験プログラム	電気電子工学科	渡邊 真彦
	産学連携による学生教育・研究プログラムの開発	バイオ・リサイクル学科	遠藤 敏郎
	修習技術者(技術士補)育成教育システムの開発と実施	バイオ・リサイクル学科	渡辺 昌規
	e-Learning を利用した個別学習支援システム(情報学部プロジェクト)	情報工学科	青井 秀樹
	ロボット関連科目へ導入するロボット教材の開発	情報工学科	朱 紅兵
	情報デザインにおける色彩・映像・CGの役割	情報デザイン学科	高桑 誠明
	情報デザイン学科におけるデザイン教育(CG・アニメーション映像作成)	情報デザイン学科	高桑 誠明
	比較文化教育	情報デザイン学科	中田美喜子
育特別研究教	アメリカの大学の講義から	電気電子工学科	松尾 邦昭
	授業の中から	情報工学科	高石 武史
教育計画	多様な学問領域の体験プログラム(HEROによる「親切・丁寧な教育」の一具体化)	電気電子工学科	渡邊 真彦
	機械工学科の実験・実習用設備の整備・改善	機械工学科	李木 経孝
	産業廃棄物を原料とした工業材料の試作実習と実用化研究	バイオ・リサイクル学科	山崎 勝弘
	地学教育と環境教育を組み合わせた新規教育プログラム	バイオ・リサイクル学科	佐々木 健
	修習技術者(技術士補)育成教育システムの完成と受験対策の実施	バイオ・リサイクル学科	渡辺 昌規
	バイオ技術者育成プログラムの開発	バイオ・リサイクル学科	新川 英典
	実践型ネットワーク関連技術者の育成とCCNA資格取得への支援	情報工学科	趙 悦
	体験学習教育プロジェクトーサバイバル映像体験や異文化体験を通してー	情報工学科	入澤 雅典
	情報デザイン専門教育における体験型学習ーセンスと感性の学習ー	情報デザイン学科	高桑 誠明
	アニメーションを中心としたデジタル映像制作の環境整備	情報デザイン学科	高桑 誠明
情報デザインにおける効率的・効果的なデジタルレッスン教育について	情報デザイン学科	高桑 誠明	

特別研究成果報告会

工学部・情報学部広報委員長 李木 経孝

平成17年度特別研究成果報告会は、平成18年3月9日(木)、中野キャンパス10号館のマルチビジョン講義室で開催され、午前中に7件、午後10件と丸一日を使って発表があった。これらの研究は、学内の審査にもとづいて採択された研究費を使って行われたもので、昨年からの継続課題が5件、新規課題が12件である。

今回の報告会で発表された研究は、多くの専門分野にわたっており、専門外の研究に関する深い議論をすることはできないが、終始聴講した後の大まかな感想を述べさせていただく。高速スイッチングデバイスの開発につながる多結晶SiGe薄膜の基礎研究、血管にマイクロバブルを注入する先端医療の進展に貢献する多孔質内水平気液二相流の基礎研究、最新のバイオ工学の手法を用いた微生物により複数の有害物質の処理システムを構築する基礎研究などから、各々が属する専門分野の科学技術を継続発展させる地道な努力がなされていることが感じられた。一方で、自動車リサイクル法を施行する上で問題となる廃オイルの有効処理を目標にした高質ガス抽出の基礎研究、環境にやさしい夢のエンジンと言われているスターリングエンジンの100W級の開発研究など、昨今の環境問題の高まりを念頭にした新しい研究課題も増えている。この他にも興味深いものであったが、その紹介は紙数の関係で割愛させていただく。

1年に数回しか集わない学会とは異なり、日ごろ顔を合わす教員同士であるため、課題申請時に立てた目標を達成した研究もあるが、予期せぬ問題に遭遇して必ずしも順調な結果が出なかった研究もあることが身近に感じられた。しかしながら、今回発表された先生方は、ますます多忙となる学生指導の合間を縫って研究を遂行され、可能な限りの努力をされてきたことが伺えた。これらの成果が、関連の学会活動に反映されることは勿論のこと、さらに、地元産業界との共同研究など地域連携の促進にも活用され、本学の社会的地位の向上につながることを期待したい。



特別研究成果報告会

研究課題	所属学科	代表者名
ナノクリスタル核形成制御による多結晶シリコンゲルマニウム直接低温成長に関する研究	電気電子工学科	出木 秀典
廃オイルからの高質燃料ガス抽出	電気電子工学科	渡邊 真彦
ナノインデンテーションによる超高純度アルミニウムの機械的的特性の解明	機械工学科	李木 経孝
気温変化に伴う屋外密閉型電線ヒューズのクリープ疲労寿命評価	機械工学科	元家 勝彦
研究用100W級スターリングエンジンの設計と試作	機械工学科	黄 樹偉
多孔質内水平気液二相流の流動および分散に関する研究	機械工学科	高津 康幸
アルミニウム押出型材の曲げ成形によるスプリングバックの研究	機械工学科	内海 能亜
自己凝集能を有した微生物による窒素、リン化合物同時連続処理システムの開発	バイオ・リサイクル学科	渡辺 昌規
日本海西部地区及び瀬戸内地区における大気汚染による金属表面の腐食	バイオ・リサイクル学科	前田 裕司
名水化学分析と地質学および岩石学の組合せ教育手法による地学教育要員の育成	バイオ・リサイクル学科	佐々木 健
溶融ガス化法によるリサイクル実験システムの開発	バイオ・リサイクル学科	遠藤 敏郎
軽量強度金属合金の開発研究	バイオ・リサイクル学科	前田 裕司
リアルタイム双方向通信に基づく遠隔教育支援システムに関する研究	情報工学科	趙 悦
花粉収集装置の実用化研究	情報工学科	青井 秀樹
サーバサイド技術者育成への支援環境の研究	情報デザイン学科	大塚 厚二
生産システムにおけるオブジェクト指向I/Oタグに関する研究	情報デザイン学科	神垣 太持
ブロードバンドを利用した遠隔教育の試み	情報デザイン学科	中田美喜子

専門知識をテコに町づくり・町おこし

現代
社会学部



カープと広島を愛する市民が会場を埋め尽くした

現代社会学部では教職員の専門性や学生の志向・活動を活かして学内資源を社会に提供していく広報・社会貢献活動にとりくんでいる。3月25日には、立町キャンパスの「たてまち公開セミナー」の一環として実施した「みんなで考える地域活性化！」の第1回企画「カープと地域活性化」を開催した。

学生時代から熱烈なカープ・ファンだという本学部助教授の奥菌秀樹氏をコーディネーターに、プロ野球解説者で元カープの主砲・コーチ、前愛媛マンダリンパイレーツ監督の西田真二氏、スポーツ・コラムニストで元スポーツ・アナウンサーの山中善和氏、市民グループ「カープと市民球場はみんなの宝物」代表で広島新球場建設検討委員会の市民代表委員でもある倉本須美子氏、そして本学部助教授で作家の迫勝則氏と、市内アパレル・ショップ勤務で本学部卒業生、在学中に

は硬式野球部のマネージャーを務めるかたわら、地元放送局のアルバイトとして市民球場でカープ戦のスコアを書いていた大庭麻衣子さん、本学部4年生で就職活動に励みながら卒業論文「広島地域とカープ球団のありかた(仮題)」に取り組んでいる藤本倫史君という6人の多彩(多才)なゲストをパネラーとして迎え、フロアも交えた応援さながらの熱いトークが繰り広げられた。

地域社会にとって身近な存在となっている広島カープ球団の応援を通じて地域活性化を図るためのアイデアを討論し、カープ球団や地域社会に提案する企画としたが、140人を超える入場者があり、また、テレビや新聞などマスコミの取材もあり、大変好評な結果であった。

公開討論会『カープと地域活性化』

公開講座『安芸に学び、安芸に伝える』

現代社会学部では2月16日から3月16日にかけて「安芸に学び、安芸に伝える—大学と市民の協働の手がかり—」というテーマで、広島市安芸区の安芸区民文化センターを会場に、5回シリーズの公開講座を開催した。今回のシリーズは、大学が位置する安芸地域の特性をふまえて、ボランティア、環境、社会貢献、文化などの地域活動や、地域の国際化、地域の医療・福祉の状況などについて、教員による実態調査や、他地域や世界の動きとの比較なども含めて紹介・検討し、地域社会(地域住民、行政、企業など)と大学がどのようなパートナーシップによってこれらの課題に取り組んでいくかを模索した。

各回の演題は「環境とボランティアドイツと日本—」(小早川宏祐教授)、「信仰及び異文化理解を通しての共生への道」(柿本理海教授)、「調査から見た広島に在日外国人」(伊藤泰助教授)、「地域の医療と人々の意識—安芸区民の医療に対する意識調査から—」(小野能文教授)、「住民参画のまちづくり」(生田文雄安芸区長)である。今回は本学が「地域との協働」を積極的に展開していくための契機づくりを意図したが、生田安芸区長からは行政の立場で、本学関係者(学生・教職員)も参加する市民参加型の行政の取り組みが紹介され、本学へ大きな期待が述べられた。



生田文雄区長による講演

合格おめでとう！

女性自動車検査員が誕生

短大就職課長 川口 修三

今年2月1日に自動車検査員の試験が行われ、桑島智子さん(平成9年3月卒業)が挑戦1回にして見事合格した。9年前に短大を卒業以来、マツダ系ディーラの浜井自動車(株)に勤務している。その間、自動車の整備やフロント業務、リース車両の管理など責任の重い仕事をこなしてきた。

桑島さんは「自動車検査員は、自動車整備と自動車関係法令を全てマスターしないと合格できない極めて難しい試験です。仕事と勉強を両立させることから苦労しました。合格してもまだまだ技術は未熟、さらに向上に努めたい」と話していた。

濱井社長も「桑島さんは、お願いしたことは納期までに完璧に仕上げしてくれる。検査員教習も受けながら仕事もこなしていたため、遅い日は夜の12時頃まで頑張ってくれました」と手放しで賞賛。それから「『やれば何でも出来る』ことを桑島さんから学ぶことが出来ました」とも付け加えられた。女性検査員の誕生は浜井自動車(株)では創業以来初めてのことで、期待も大きいようだ。

短大で自動車の基礎知識を学んだことが非常にプラスになったという桑島智子さん。今後ますますの活躍が期待される。



桑島智子さん
(撮影 浜井自動車(株)本社)



冷静に！まじめに！手際よく！消防訓練

全教職員を対象とした第2回目の短大消防訓練を、海田消防署員立会いのもと3月20日に実施した。当日登校していた学生約30名も参加し、通報訓練、避難訓練そして実際に消火器を使用した消火訓練を行った。昨年の成果であろうか、全員が真剣にまた上手に取り組んでいた。昨年は消火剤の空中噴射などという珍技もあったが、今回は消防署員の指導に従い模範的訓練ができた。継続的な訓練の効果とその重要性を認識して消防訓練は終了した。

応急処置は任せて

—— 救急救命講習会開催 ——



愛・地球博会場や新宿駅などにも設けられて話題となったAED(自動体外式除細動器)。全国の人口密集地に設置され始め、医療資格を持たない人でも取り扱えるようになった。しかし、救急救命に際しては備え付けの説明書を読む時間も惜しい。素早く応急処置をとるに越したことはない。

3月29日に救急救命講習会を催し、短大、現社の教職員約25名が参加した。海田消防本部の救急救命士に出張いただき、テキストによる説明を聞いた後、3班に分かれて人工呼吸、心臓マッサージの仕方とAEDの使い方を学んだ。人体模型を用い、一人ひとり実技訓練を受けた。全員が額に汗を浮かべながらも必死で覚えようと取り組んでいた。万一の時にも沈着で迅速な通報、応急処置が身についたようだ。一度きりでなく定期的実施するようになりたい。



425人の新入生



高校生活のスタートです

今年もまた、瀬野川沿いの桜はあでやかなピンクの花びらを誇らしげに開き、真新しい制服姿の凛々しい若者たちを迎えた。

4月8日、第60回入学式は本校体育館で晴れがましくも厳粛なうちに挙行され、新入生425人は、期待と不安の入り交じった緊張した面持ちで高校生活3年間のスタートをきった。

長野政義校長の入学許可の後、新入生を代表して普通科1年1組内富貴子さんがはつらつとした「入学の誓い」を述べた。そして、校長による式辞、鶴素直理事長による祝辞へと続き、保護者代表挨拶で式は滞りなく終了した。

その後、吹奏楽部による歓迎演奏に耳を傾け、教頭による12人の担任紹介が行われる頃には、緊張した生徒たちからも笑みがこぼれ始めた。最後に生徒指導部、国際交流室、教務部からの伝達事項を聞いた後、吹奏楽部の校歌演奏のメロディに乗り、担任を先頭に各教室に分散していった。

イギリス姉妹校訪問

国際交流室 土肥 穰治

今回で5回目を迎えたイギリス姉妹校訪問。12名の定員に対し25名が応募。選考して男子3名、女子9名が参加しました。当地の3月は例年より10度程低く、-3度~3度というとても寒い日が続き、天候も不順で雨、雪、晴れが1日のうち何度も繰り返されました。ロンドンのBritish Councilが本校とベックフットスクールとの交流に注目し、ホーン校長先生もこの交流の利点や意義を生徒やホストファミリーに強調されていました。今後も内容を更に精選し、良い交流ができるよう努めていきたいと考えています。来年3月にも訪問します。



ホストファミリーとの楽しい一時

「楽しくて!楽しくて!」

普通科3年4組 永谷 文

「楽しかった!!」こんな体験はホームステイじゃなきゃできないです!! 普通の旅行じゃダメです!! 今回のホームステイプログラムに参加できて、本当にうれしいです!!

トーストをフォークとナイフで食べるのは初めてでした。朝食はどれもすごくおいしかったです。しかも鶏を飼っていて、卵をとってすぐそれを食べるので卵は特に新鮮でおいしかったです。夕食は何回かパブに連れて行ってくれて、鶏肉やピザやパスタを食べました。パブはとってもおしゃれでした。つい日本と何でも比べてしまい、ずっとイギリスにいたいと何回か思っていました。家で食べる時もなんだか外食しているような雰囲気ですごく楽しかったです。

ベックフットスクールは先生に聞いていた通り、迷路みたいでした。廊下ですれ違う人々は時々日本語で挨拶してくれるのでうれしかったです。授業にも参加しました。料理をしました。ピザを作って楽しかったです。他の授業では、ベックフットスクールの生徒に日本の昔の遊びを教えて一緒に遊びました。折り紙は結構難しいらしく、いっぱい教えてあげました。ちょっとしたゲームをしたり、けん玉やこま回しをしたりしてとても楽しかったです。この授業はいっぱいしたかったです。



折り紙を指導中

リーズの学校に行った時は、みんな1人1人バラバラの教室に行き、授業を受けるということで、すごく緊張しました。ここで改めて、私の方が外国人なのだ実感しました。授業は全部で3回ありました。とても貴重な体験でした。イギリスの授業風景を見られてすごくうれしかったです。

イギリスの町並みは日本のものとは比べものにならない位かわいかったです。建物は全部古い感じがかっこよかったです。こんな家に住みたいと思いつつながら町を散策しました。周りを見ながら歩いているだけで、とても充実した気分になりました。

イギリスに行く前はもちろんすごく楽しみにして、いろんなことを期待していましたが、本当に今回のホームステイは期待以上でした。こんなに楽しいとは思っていませんでした。ホームシックになっている暇がないほどでした。

海邦リーグ参加

沖縄遠征 硬式野球部

今年もまた海邦リーグに参加してきました。春がいち早く訪れる沖縄で恒例の行事となっている野球の祭典です。全国の強豪校が3月中旬に沖縄に集い、実力を競い合い、友好親善を図る目的で開催されています。本校は発足当初から、広島県で唯一招待され参加してきました。

硬式野球部は現在3年生24名、2年生34名、1年生27名、計85名で夢の実現に向けて頑張っています。近年の成績は、ベスト8、ベスト4と1つの壁に当たっていますが、昨年の暮れから今年の冬季にかけての練習で、瞬間・一瞬・一球をスローガンに、物事に対する意識の向上と、気持ちを大切にすることを育んできました。今回の沖縄遠征はその成果を試す絶好のチャンスになりましたが、今まで打ち負けていた関東のチームに打ち勝つなど、成果がみえてきました。



沖縄の春…笑顔満開(那覇空港にて)

一方で、自分たちの思うようにいかない場面や試合が多々ある中、いかにその場を我慢し、辛抱して夢の実現を果たすかという課題はまだ残っています。その課題を克服するためにも、沖縄遠征での貴重な体験を生かしながら切磋琢磨して、一步一步着実に前に進んでいこうと思います。

来年創立80年の歴史を迎える本校に恥じない硬式野球部として邁進してまいりますので、今まで同様のご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

ひたすら机に向かっ
て勉強合宿

江田島青少年交流の家

今年3月の春休み、特進コース1年生を対象に国立江田島青少年交流の家にて3泊4日で実施した。本校としては記念すべき初の「勉強合宿」である。内容はひたすら勉強および自学自習をするというもの。62名の生徒と9名の教員が参加し、かつて経験したことのない長時間の学習に取り組んだ。合宿後はそれぞれ自信を深め、大学合格へ向けて受験勉強のベースづくりに役立てている。

参加者全員が研修室に集まり、70分～90分単位で1日11時間の学習(授業+自習+小テスト)を敢行。学習中の私語は勿論、席を立つことも厳禁。疲れて集中力を失うこともある。でもそんなとき、周りの人の一生懸命な姿を見て刺激を受け、また頑張る。1日11時間の学習を4日間続けることは大変だが、終わった後の達成感は何とも言えない。

家と違って先生方がいるので、勉強ははかどる。そして合宿中の楽しみは食事。この時間だけは勉強のことを忘れ、友達とおしゃべり。しっかりリラックスした。

勉強合宿を終えて

～参加した生徒の感想より～

普通科2年2組 勝部 真実

4日間勉強、勉強、勉強という日程だったので、ついていけるかとても不安でしたが、無事乗り切れました。確かに校長先生がおっしゃったように、4日で学力が一気に上がることはなかったでしょうが、集中力というもの少し身についたと思います。「決められた時間はやり切る」という考え方も学びました。夏休みにも勉強合宿があるなら、また新たな考え方や実践力を手に入れたいです。今回の合宿で確かに得たものをこれからの勉強法に取り入れていこうと思います。



勉強にいそむ生徒たち



リラックス 食事タイム

ふれあいヒューマンコンサートIN大柿

吹奏楽部

去る3月26日に、大柿中学校の体育館において『ふれあいヒューマンコンサート』が開催され、本校吹奏楽部はゲストとして参加しました。江田島市と江田島市教育委員会が主催したこのコンサートでは、江能3中学校(大柿・江田島・能美)と本校吹奏楽部がそれぞれ演奏を披露。最後は総勢100名以上の合同演奏で会場を盛り上げました。

聴衆のほとんどが地元の方々で年齢層も幅広い中、本校はミュージカル「ミス・サイゴン」、「アメリカン・グラフィティXI」などを演奏し、好評を博しました。中でも本校得意のスタンドプレーや「A列車で行こう」でのタップダンスなどは、会場内を大いに沸かせました。また、合同バンドのリハーサルでは、本校の生徒が中学生をリードし、アドバイスしたりして、非常に有意義な時間を過ごしました。本校の生徒は先輩としていつも以上に緊張し、中学生のお手本となるよう頑張っていました。



島の人たちとの楽しいふれあいの一時

これからも、聴いてくれる方々が感動し、楽しんでもらえる演奏を目指して、いっそう努力していきたいです。



サークル参加でメリハリある 楽しい大学生活を！

— 新入生オリエンテーション —

学友会 渉外兼新聞委員会委員長 やお しゅんすけ
矢尾 俊祐

4月8日(土)、広島国際学院大学中野キャンパス体育館にて、新入生オリエンテーションが行われました。学友会本部が主催し、学内にあるさまざまなサークルの紹介をメインに展開しました。

新入生オリエンテーションでは各サークルがステージやビラ、看板などを利用し、さかんに声をかけながら新入生を勧誘する姿がありました。サークルのブースで部員の話に耳を傾ける新入生も大勢見られ、各サークルに新しい風が吹き込んでいたようです。

ステージでは各サークルが短い持ち時間を存分に活用し、それぞれユニークな発表でアピールしていました。アーチェリー部は口頭説明の後、スペースを利用して射的を実演。応援リーダー部やMPA(Music Planning Agency)のパフォーマンスもステージ発表を盛り上げていました。また、茶道同好会は体育館内に日傘を持ち込み、興味のある新入生は外でお茶を楽しむことができるようになっているなど、他のサークルにはないアピール方法で新入生を歓迎している姿が見られました。

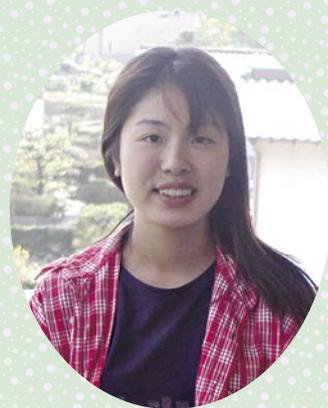
大学生活において一つのメリハリを与えてくれるのがサークル活動です。今回のオリエンテーションで興味を持ちサークルに入った新入生の方も、まだサークルに入っていない方もいるでしょう。新入生の方々がこれからの4年間を楽しめるように自分から積極的に動いてくれることを、学友会一同心より願っています。

なお、今回のオリエンテーションでは当日、VOD(放送通信研究会)が音響を全て引き受け、MCも担当してくれるなど多大な尽力をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

私の大学生活

社会人から大学生に転身、わくわくする毎日

工学部 バイオ・リサイクル学科 1年 まるたに ちか
丸谷 知香



大学に入って、あっという間に2ヶ月が経ちました。まだまだ慣れない環境で分からないこともいっぱいありますが、最近少しずつ教室の場所も覚え、やっと大学生活が始まったように感じます。

3月まで社会人だった私は「学生っていいなあ」と思っていました。学びたい勉強ができて、自由で楽しそう。でも、実際学生になってみると、最初は必須科目が多かったり、90分ずっとイスに座っていたり、と意外に大変で、頑張らないといけないなと思いました。

授業は数学や英語などはクラス分けされているので、先生が分かりやすく説明してくれ、苦手だった科目も楽しく学べるようになりました。

サークルでは茶道部と少林寺拳法部に入っています。がやがやした生活を忘れ、落ち着いた精神と礼儀作法を身につけることができるのでとても新鮮です。

今は多少不安もありますが、これから先の大学生活を考えるとわくわくしてきます。

大学生活で一番楽しみなのは、課題研究です。高校時代におからの研究をしていたのですが、当時は時間や行動範囲が限られており、思うような結果を出すことができませんでした。大学では悔いを残すことがない様に精一杯学んで実験し、結果が残せるようにしていきたいと思います。

留学生の声

反復学習が秘訣・上級レベル試験に一度で合格!

工学部 機械工学科 3年 ^{いん} 殷 ^{がくぶ} 学武

2004年4月に大学に入学し、もう3年生になりました。生活のためのアルバイトをしながら勉学を続けています。少し大変ですが、専門の知識に加え日本の文化も勉強することができ、たいへん充実した生活を送っていると思います。

もともと機械に興味があった私は、中国にいた頃から既に日本製の機械や電気製品が素晴らしいことを知っていたのですが、入学半年前に語学の勉強のため日本に来て、それをより強く感じ、機械工学科を選びました。大学の講義の中で好きなのは機械設計、AutoCAD、機械加工です。先生がいつもわかりやすく解説してくれます。私も興味を持っていることにいろいろチャレンジしていきたいと思っています。

2004年9月、CAD利用技術者試験2級(学科試験)の受験を申し込みました。この試験の対策講座では、担当の先生は模擬試験を何度も行い、家に帰ってからも何度も繰り返し問題を解きました。そのおかげで、一度で合格することができました。

さらに上級レベルにも挑戦してみたくなり、2005年9月にCAD利用技術者試験1級(実技試験)の受験を申し込みました。試験は11月なので、2か月間ほとんど毎日大学のパソコン教室に通い、過去の問題をすべて6回ずつ練習しました。家でも先生に貸していただいた機械製図のテキストをよく読んで、必死に勉強しました。試験の時はかなり緊張して、時間も足りませんでしたので、だめだと思っていました。翌2006年1月19日に試験結果が発表され、78.6点で合格でした。2級および1級とも一度で合格でき、先生にも心から感謝しています。

次の目標は3次元CAD試験です。今は夢に向かって、勉強を続ける毎日です。



学生時代の思い出と社会人になって思うこと

ピンチはチャンス! 失敗を恐れず勝負を

広島トヨペット株式会社 常務取締役営業本部長 ^{ふじかわ} 藤川 ^{りゅうそう} 龍三
工学部 電子工学科 昭和49年3月卒業

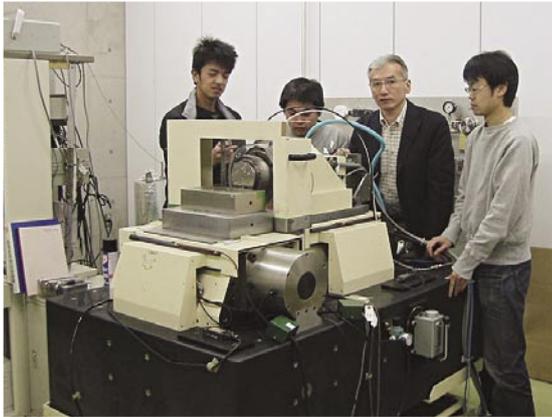
広島トヨペット株式会社に入社後、新車営業スタッフを経て本社における営業部門の中核機関である営業推進企画室やサービス部長、新車部長を務めました。現在は全営業部門を統括する営業本部長という立場にあります。

そもそも入社のかっかけは、早く社会人としての実績をあげ、マイホームを建てるという夢があったからでした。大学で学んだ電気・電子・機械工学が活かせる仕事に就きたいと思い、自動車という業界に目を付けました。実をいうと私は当時話題だったN社の『スカイライン』という車にあこがれていて、希望先は違う方を向いていたのです。オールトヨタ(トヨタ系販売店)の新入社員にはガム島研修があると聞いて広島トヨペットに入社を決めたものの、折悪しくオイルショックでガム島は断念せざるを得ない状況に。研修は箱根の温泉に変更、人生はままならぬものと思い知るところとなったのです。

人に負ける事が何より嫌いな性格の私は入社後も人一倍の努力を重ね、営業一筋に頑張ってきました。大学で学んだ学問や技術より、営業という仕事の本質が自分に向いていたのでしょう。若い頃は仕事ばかりでしたが、最近では海外ゴルフ、フランスのシャトー(ワイン)巡り、世界名美術館巡りと興味をひかれることが沢山あります。毎年恒例の行事で、営業成績の優れた社員との招待旅行は何よりの楽しみです。今年もオーストラリアへ100名を引き連れて参ります。

学生から社会人へと脱皮するにあたり、就職先を選択する事は人生において一つの賭けだと思っています。社会人になったからには失敗を恐れず、頑張してほしいものです。私自身も何度となく「ピンチはチャンス」として乗り越えてきました。一つの失敗をしても二つの成功を目指せば良いと私は考えます。皆さんもどうか自分を奮い立たせ勝負してみてください。広島トヨペットには毎年50名以上の新入社員が参ります。営業の素晴らしさを体験したい方は是非おいで下さい。お待ちしております。





大学院生達と
超精密加工試験機の調整

数年前から、IT、環境、バイオと並んでナノテク(ナノテクノロジー、Nano-technology)に関する記事が新聞をはじめ多くのマスコミに紹介され、重要な科学技術として、産業界にとどまらず一般でも注目を集めています。この分野でよく知られているものは、ナノマシン、カーボンナノチューブ、高密度記憶素子、単電子素子などがあり、機械、材料、エレクトロニクス、ライフサイエンスなど多岐にわたる学際的な科学技術となっています。

本研究室では、超精密加工試験機や走査型プローブ顕微鏡などを駆使して、ナノテクを支える加工技術や計測技術に関する研究を進めており、これまでに、「走査型プローブ顕微法によるナノスケール加工」や「ナノトライボロジー」について成果を出してきました。最近では、シリコンウエハや光学ガラスの超精密研削の要素試験を行い、欠陥のない高品位な加工面が高能率で生産できる、いわゆる「延性モード加工」を実現するための加工

条件の把握と、その加工メカニズムの解明を行いました。さらに、本学ハイテク・リサーチ・センターで精製された世界最高レベルの超高純度金属について、主に「ナノインデンテーション法」で試験して、これまでの常識を覆す機械的特性を見出しつつあります。

紙面の関係で概略のみ紹介しましたが、詳細については本研究室のホームページ<http://mic.m.hkg.ac.jp/> に関連の記事や論文が掲載されていますので、ご訪問いただくと幸いです。



工学部 機械工学科

すもも ぎ つね たか
李 木 経 孝 研究室

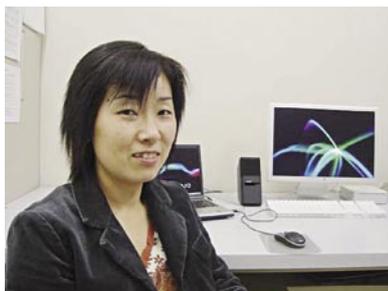
ナノテクノロジーで未来を開く



情報学部 情報デザイン学科

きた いち のり こ
北 市 記 子 研究室

映像表現とメディア論的思考



昨年4月に本学に就任してから、早いもので1年が経ちました。私より“1年先輩”の情報デザイン学科にも、今春から3学年が在籍することとなり、学科の教育もより専門的な内容へと移行しつつあります。情報デザイン学科では、3年に進級する際にゼミ配属が決まるのですが、今回は映像志望の学生が多く、結果的に、私の研究室が最も大所帯となりました。彼らの興味は様々ですが、皆が自分で何か映像作品らしきものを作ってみたい、という意欲を持っています。

映像と一口に言っても、その分野は様々です。その中で私の専門は、実験映像と呼ばれる領域になります。ここで言う「実験」は、いわゆる科学実験ではなく、既存の映像の表現形式に常に疑問を投げかけながら、前衛的で自由な映像表現を

体現していく、という意味での実験です。現代芸術の一つの形として、映像というメディアを用いた表現研究を行っています。これまでの創作活動の中で、私は、映像メディアを単にイメージ伝達の手段として使うのではなく、メディアに対する思考それ自体を作品のコンセプトとしてきました。そこでは、画面に映るイメージがメッセージを語るのではなく、映像の光や色・動きによってつくられるパターンが見る人に新しい視覚体験をもたらしていきます。

学生達は必ずしも実験映像に興味がある訳ではありませんが、どのような作品を作るにしろ、彼らには常にメディアに対するある種の「自覚」を持って作品制作に当たって欲しいと考えています。映像機器やコンピュータなどのメディアそのものが、新しい創造の契機となり得るということを、学生達に伝えていきたいと考えています。



の 紹 介 ● ● ●

私が研究対象としているのは朝鮮半島というエリアです。ご存知の通り、朝鮮半島には戦後、大韓民国(韓国)と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)という二つの「国家」が成立し、戦争を含む激しい対立を経て、事実上“共存”の時代ともいえる現在に至っています。敢えて一言で言うならば、「朝鮮とは何か」、「朝鮮人とは何者か」を追い求めることが私のライフワークですが、中でも、韓国の政治外交や安全保障という切り口から韓国と韓国人に迫ってみたいと思っています。冷戦期から現在に至るまで韓国が歩んできた“現代史”を紐解いてゆきながら、“自分がもし韓国人として彼らの立場に立たされたとしたらどうするだろうか”と考える度に、韓国人の心の襞を数えるかの如く、地道で着実な作業に真摯に取り組むことの大切さを実感する毎日です。

私が本格的に韓国と向き合うようになったのは、ソウル五輪を控えた1980年代の後半期でした。ソウルで送った三年間の留学生活は、大学院生だった私にとって、飛行機でわずか一時間余りの隣国で見るもの、聞くもの、触れるもの、その全てが刺激的で、一時も退屈することのないエキサイティングな日々でした。帰国後、報道機関での記者生活を経て、七年前から研究生活に入りましたが、隣国は今も意外性をもって私の好奇心を刺激し続けてくれています。

私の研究室は、山のような書籍や資料でまさにごった返していますが、その半分は韓国で入手したものです。中には80～90年代の韓国映画の資料等もあります。“韓流ブーム”に関心がある方も含めて、よかったらどうぞ一度のぞいてみて下さい。



朝鮮半島の国と国民に迫る

現代社会学部

おく 奥 どの 蘭 ひで 秀 き 樹 研究室

精神障害者共同作業所と当事者参画モデル

大学院 現代社会学研究科修了 ささき 哲二郎

この3月、広島国際学院大学大学院 現代社会学研究科 博士後期課程を修了し博士(社会学)の学位を賜りました。大学院の諸先生方の厳しくも温かいご指導と励ましのおかげと感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

現場でかかわりのある精神障害者の共同作業所とそこでの当事者の活動をテーマに、実践を理論化したいと考えてきました。今日、精神障害者が専ら医療の対象とされてきた時代から、「福祉モデル」への転換において共同作業所は重要な役割を果たしています。さらに精神障害当事者が社会の構成員として正当な地位を得るため、あらたに「当事者活動モデル」を想定し理論化すべく実践にとりくみました。このモデルは、当事者の生活に影響をおよぼす組織やコミュニティの決定や政策形成過程に参画し、街づくりや地域の福祉計画に影響をもたらすことをめざすものです。具体的には共同作業所の将来計画を当事者が対話によって練り上げ、地域の街づくりの活動と一体となってこの計画実現のためにとりくむ実践となり、さらにはパワーを獲得した当事者が演劇活動を始めるという予想だにしなかった展開をみせております。

このような当事者活動にかかわる職員等の「指導」や「援助」がこれまで当事者の無力化をもたらしてきた限界を「促進者」による「協働」へ転換する、その関係のあり方についてもとりくんできましたが、この点はさらに深めていかなければならないと考えています。

実践を理論化すべく研究の重要性について指導をいただいた成果が、現場の実践化に貢献できたと思います。



精神障害者の生活を描いたお芝居
NPO法人ウイングかべと劇団ウイング
(5月13日)

18歳人口の50%近くが大学生になる今日、大学に入学してくる学生の高校時代に学んできた内容も多様性に富んでいる。したがって、大学の教育システムもその多様性と整合したものにすることが必要である。その際、考慮すべきことは、教育内容に多様性を持たせて、なおかつ比較的少ない教員でその教育を担当するには、その多様性に無制限に対応できるシステムは不可能ということである。すなわち、その多様性を大きく分類し、ある程度の類型化をして、その枠に従って教育するシステムを作ることが重要な課題である。ただ、この類型化を現在本学で教育されている全科目について行うことは、これまでの蓄積された有形無形の知識の集積やその絡み合いの複雑さを考えると不可能といえる。そこで本プログラムでは、その類型化を一部の科目に限定して行い、今後その成果に基づいて少しずつ拡大していくのが現実的なアプローチと考えられる。今回は、その類型化を大きく3つのグループに分ける。

2年次用

科目	一芸育成Ⅰ	一芸育成Ⅱ
副	基礎工業数学Ⅰ	基礎工業数学Ⅱ
	電気電子関連資格Ⅰ	電気電子関連資格Ⅱ
	CAD 応用Ⅰ	CAD 応用Ⅱ
	技術士への道Ⅰ	技術士への道Ⅱ
題	技術と産業化Ⅰ	技術と産業化Ⅱ
	情報関連資格Ⅰ	情報関連資格Ⅱ
	CG 検定Ⅰ	CG 検定Ⅱ
	自己発見Ⅰ	自己発見Ⅱ

3年次用

科目	一芸育成Ⅲ	一芸育成Ⅳ
副	基礎工業数学Ⅲ	基礎工業数学Ⅳ
	電気電子関連資格Ⅲ	電気電子関連資格Ⅳ
	CAD 検定Ⅰ	CAD 検定Ⅱ
	技術士への道Ⅲ	技術士への道Ⅳ
題	技術と産業化Ⅲ	技術と産業化Ⅳ
	情報関連資格Ⅲ	情報関連資格Ⅳ
	CG 検定Ⅲ	CG 検定Ⅳ
	社会人への道Ⅰ	社会人への道Ⅱ

この表の一番上の行が「工学基礎分野の知識の修得」、2行目から7行目までが「資格取得と物作り」、一番下の行が「対社会性に重点をおいたキャリア形成」の教育システムで、2年次と3年次の2年間のプログラム。



猛勉強中

整備士国家試験全員合格 遂に達成!

短期大学部

この度行われた自動車整備士試験の合格率は表の通りである。2級ガソリンの全員合格は自動車工業科創設以来の念願であったが、遂に達成することができた。また、1級整備士は2年連続全員合格という快挙であった。

このような高い合格率の背景には、優秀な自動車整備士を育成し世に送り出すという本学部の大きな目標があり、学生と教職員が一丸となって毎年必死に取り組んできたことが挙げられる。

短大部では2年次の前期から本学独自の2級前期講習会を行い、同時に習熟度の低い学生に対しては正規の授業とは別に教員が2名程度の学生を受け持ち、基礎学力の向上を図っている。整備振興会主催の実技免除講習会の始まる後期には、さらに対象となる学生を4～5名に増やして受験対策の勉強会を行っている。今年は2月に入って勉強会への参加を希望した者も含め、約2/3(教員一人当たり5～6名)の学生が個人指導を受けた。2月からは土曜日、3月には土日の休日も返上して「教育は愛なり」の精神で指導を行っている。この時期になると学生も目標に向かって積極的に取り組み、かけた時間にほぼ比例して成績が上がるのでやりがいを感じ勉強を楽しんでいる。

専攻科についても同様に後期から筆記試験の受験対策が本格化し、2月からは口述試験を含めて1級担当の教員2名が個人指導に当たった。

このように本学部では全員で取り組める目標が毎年ある。このためやりがいがあるし、達成したときの喜びも大きい。今後は、1級・2級ガソリン・2級ジーゼルのグラッドスラム達成を目指して努力していく。

		卒業者数	受験者数	合格者数	合格率
1級	筆記試験	6名	6名	6名	100%
2級	ガソリン	147名	146名	146名	100%
	ジーゼル	147名	49名	48名	98%



1級筆記試験合格をめでして

この広報誌はホームページでご覧になれます。

<http://office.hkg.ac.jp/~kikaku/kouhou/>

平成17年度決算はホームページでご覧になれます。

<http://office.hkg.ac.jp/~keiri/kessan/>